平成25年度予算特別委員会においての成果など

高齢者の尊厳

高齢者介護の大きな命題は、失われつつある人間性の維持、回復にあると思うのです。特養に入れば、それまでお金の管理、火の管理、鍵の管理ができなかった人が、それを全くしなくていいわけで、できることを100%するだけでよくなる。次第に人間性が回復していき、家族の関係も回復していく。補助具を使えば、お箸を持てなかった人が、介助されることなく自分で食事できるようになる。たった一つのスプーン補助具で人間性が回復していくのです。港区のいろいろな介護施策も、こういった人間性の回復や維持というのが根本にあるべきだ。高齢者紙おむつ給付事業についても、排泄介護は尊厳保持の砦だ。紙おむつへの転換期こそ、その分岐点であるとも言え、要介護者の気持ちに寄り添うように介護環境を考えていかなくてはならない。港区のおむつ支給事業が、排泄介護に関して、どのように高齢者の尊厳に寄与するのか、その課題を問う。

個々のニーズに合わせた支給品目を拡大。

生きていくことの基本「食 育」

調理する人の心を感じること、食材の生産者の心を感じること、食材自体が持つ命を感じること。食育は知、徳、体、教育全ての礎となる生きていく上での基本だ。区立各校において全区的に積極的で前向きな食育の取り組みを進めて欲しいがその諸課題について問う。

全区的な取り組みとして推進していく。

港区民の足

ちぃばすについて。区民の意向や利用状況に合わせて比較的容易に改善することができるのが地域公共交通の持ち味だ。来年度の改善に関わる諸課題について問う。

麻布ルートのわかりにくい路線の解消、青山ルートの日赤病院乗り入れの利便性向上のためのルート変更を確約。

ペットと都市の共生

600人以上の署名を受けて平成22年に提出された『区の中央部にドッグランを作って欲しい』との要望書を受けて、区は独自のドッグランの規定を整備し、関係機関とも交渉を続けてきた。現在の進捗と今後の課題を問う。具体的な適地も明確にしていただきたい。

「都立の芝公園の一部を活用し、区立のドッグランを整備、運営できないか検討している。芝公園15号地を候補地として東京都と協議を進めている。」と区が具体的公言。

子供たちの脅威

インターネットによる不適切な書き込み事案ひとつとっても、小学生の40倍近く、中学生のネットに孕む危険性は飛躍的に増加する。フィルタリング技術が万全とは言えない持ち歩けるパソコンともいるスマートホン普及もその一因だ。保護者、学校関係者もその高度化する情報機器についていけなくなっている。未来ある中学生をネットの危険から守るために教育委員会としてどのような対応をしていくのか問う。

区は徹底した防止施策を講じる。

平成25年度予算の概要

新規・臨時・レベルアップ事業数

区　分	事業数	予算額
新　　規	32	176,161
臨時（新規）	52	2,263,647
臨時（継続）	46	26,369,664
レベルアップ	39	1,977,075
地域事業（新規）	1	1,266
合　　計	170	30,787,813

（単位：件、千円）

各会計の財政規模

区　分	平成25年度	対前年度比較	
	当初予算額	増減額	増減率
一般会計	115,850,000	12,300,000	11.9
国民健康保険事業会計	22,481,455	1,246,746	5.9
後期高齢者医療会計	4,415,902	△28,116	△0.6
介護保険会計	13,353,355	354,992	2.7
合　　計	156,100,712	13,873,622	9.8

（単位：千円、%）

これまで実現してきたこと

○高齢者介護の港区独自事業として「病院内での通院介助支援サービス」を事業化

○港区でも増え続ける児童虐待の対策を迫り、子ども家庭支援センターを組織強化

○障害者児童の休暇中の居場所作り事業を港区障害保健福祉センターにて実現

○公立学校校庭の全面芝生化を麻布小学校にて実現。以降整備される校庭芝生化へ道筋

○「青南小学校第2校庭の整備」を推進、天然芝校庭を開設

○発達障害対策の庁内の連携組織である発達支援センター機能の確立

池田こうじプロフィール

福祉こそ政治、政治こそ福祉そのもの

児童福祉と高齢者福祉の専門家から区議会への歩み

20代から福祉現場に従事、ケアマネージャー・特別養護老人ホーム施設長などを務め、港区あんしん介護センターを設立・運営。西麻布の特別養護老人ホームベルを準備責任者として設立。港区介護事業者協議会会長など歴任。高齢者・児童福祉現場を経て現在、港区議会議員2期目。東京都後期高齢者広域医療連合議会議長。町会副会長・地区委員会理事・消防団班長など地域活動にも従事。虐待児など家庭に恵まれない子供たちを預かる児童養護施設の運営はライフワーク。

港区立青南小、港区立三河台中（現六本木中）、都立小山台高校、同志社大学文学部哲学科、卒業。慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科修士課程修了。自民党政経塾卒塾。

昭和39年生まれ、家族、妻・長女・長男。

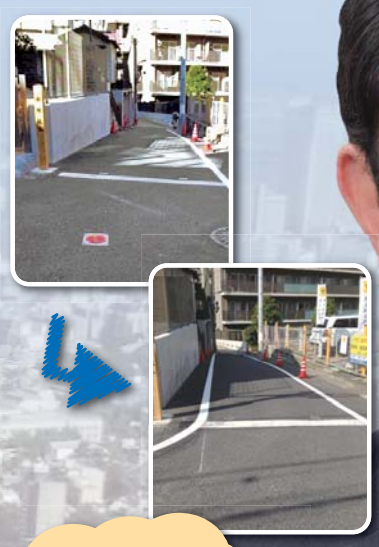
自由民主党 港区議会議員

池田こうじ

区政報告 第9号

どんな細かいことでもご連絡ください

〈車輌が危険な坂道に歩行線を引いた事例〉



2013年3月29日発行

区政報告についてのご意見、区政への要望等をお聞かせください
FAX 03-5549-4157
mail:info@ikeda55.com

港区議会自民党控室
港区芝公園1-5-25
P C 版 HP　http://www.ikeda55.com
港区自民党 HP　http://www.minato-jimin.com/

自由民主党 港区議会議員

池田こうじ

区政報告

第9号　2013年3月29日発行

池田こうじ　検索

http://www.ikeda55.com

２期目の折り返しに際して

女川町にて。地元の方から被災当時の話をお伺いする。

議長（池田こうじ）、連合長（西川荒川区長）、副連合長（濱野品川区長）

今でも、被災地の惨状が胸に刻まれています。大震災直後の統一地方選挙で負託をいただいた区議会議員としての2期目も、早いもので折り返しとなりました。

この2年間は主に、港区において最重要課題となった防災・安全施策を担当する特別委員会委員長（平成23年5月委員長就任）として、区民生活の安全・安心の向上に尽力し、一定の成果を得たものと自負しております（下記「特集」参照）。

また、港区の職務だけではなく、予算一兆円を超える都民130万高齢者を被保険者とする東京都後期高齢者医療広域連合議会議長（平成23年7月連合議会議員当選、平成24年7月議長就任）として、同制度を廃止とする民主党政権下においても、老後の安心の礎となる医療保険の安定的な運用に尽力した2年間でした。

「池田こうじ区政報告第9号」は、専門の福祉分野での施策展開を含め、任期前半の活動を総括し、平成25年度予算特別委員会での成果も合わせ活動報告とさせていただきます。

これからも、区民のため、区政進展のため、安心して暮らせる地域社会の実現のために地道に努力をして参ります。

池田こうじ

特集　区民生活の安心・安全に尽力した２年間

── 港区議会 防災・エレベーター等対策特別委員長として ──

港区防災基本条例を制定

防災対策の基本理念や区民・事業者・区が取り組むべき基本的事項等を定め、今後の区の防災対策を総合的に推進する基軸を制定。主要各紙でも、都心の防災条例として画期的と評価。

福島第一原子力発電所事故を受け港区放射能・放射線対策対応方針を策定

「区民、とりわけ子どもたちの安全・安心を、より一層確かなものとし、区内の放射能・放射線量の実態を把握し、区民の皆さんにきめ細かくお知らせする」としたこの方針に基づき、23区でも最もきめ細かい対応を推進。

大震災を踏まえた緊急対策を推進

(1)被災者、被災地の復興支援、(2)大震災の影響を受けた区民および区内事業者への支援、(3)地域防災計画の見直し、(4)新たな防災拠点の検討、(5)職員の防災対応力の向上と災害対策本部機能の強化、(6)避難所配置の再検討と避難所機能の充実・強化、(7)帰宅困難者対策の再検討、(8)高層住宅防災対策の充実、(9)災害時要援護者対策の再構築、(10)区民が行う防災対策への助成促進などを推進。

エレベーターの安全対策を推進

平成18年に男子高校生がエレベーターに挟まれて死亡する事故を教訓とし、区は安全管理や補修を万全にしてきたが、昨年10月末に金沢市で再びシンドラー社製の事故があり、不具合が多く発生している他社製エレベーター13台の交換も含め、高齢者住宅など区内施設設置のシンドラー社機種20台の交換を決断。

いけTopics① 子供たちこそ未来への希望

どうして虐待事案は尽きないのだろう、といつも暗澹としています。

私のライフワークは児童養護です。虐待からの保護や両親がいないなど事情はさまざまですが、家庭に恵まれない52人の子どもたちを預かり親代わり兄弟に変わり育成をしています。施設と三つのグループホームを運営しています。普通の家庭と同じように、家庭を知らない子供たちと職員が暮らすのです。

子供たちに希望を見出させなくて何の福祉だ、と思います。

大震災時においても児童養護の専門家として震災孤児の支援にいち早く取り組みました。子供たちに希望を与えずして本当の復興とは言えないのです。

児童養護グループホーム

港区政においても、子ども家庭支援センターの機能強化など児童虐待根絶のための提言を続け、数々の実績を重ねて参りました。

困った方々に手を差しのべる。これからも私の政治活動の根にあるこの奉仕活動を続けていきます。

いけTopics② 六本木を住み良く輝けるまちに！

予算特別委員会で、酔客の中を通学する小学生を区長に写真で見せる。

六本木の安全・安心向上のための抜本的対策は継続して取り上げてまいりました。6年間訴えてきた六本木のルール作りが「六本木憲章（仮称）」として本格的に取り組まれることとなりました。今秋には地域の方々を中心に協議され策定される予定です。

「涙ぐましい地域の努力があっても六本木にはまだ多くの課題があります。何か画期的なルールをつくらなくてはいけないと思います。店の前を店の人みんなが片づければ、10分でまちはきれいになるはずです。飲み食べ歩き禁止区間ですとか、タバコ課金の特別設定、朝5時以降営業禁止等々、このルールをつくるのは大変なハードル、課題があろうかと思います。地域活動ばかりではなく、区が幾ら動いても、それだけでは六本木はよくならないとも思います。東京都、警察、入管など関係機関を巻き込み、私が以前から提案している特区的な発想や、先ほど言ったような六本木ルールのようなものをつくり、徹底することをしていかなければよくなりません」

（決算特別委員会総括質疑）